

パチンコ依存で 困ったら

西村 直之

一、七〇〇万人が利用し、年間約二九兆円を売り上げるパチンコ・パチスロは、国民的娯楽の代表的存在です。ところが、この一〇年でパチン

コ参加人口は、約一、〇〇〇万人減少し、店舗数も減少し続けています。低迷し続けた景気、少子化、娯楽の多様化などの影響が原因のようです。本来、遊技場や、遊技参加人口が減少すれば、遊技によって問題を抱える人数もまた減少するはずですが、

ハイリスク・ハイリターン化した遊技機の登場などを契機に、ヘビィユーザーと呼ばれるパチンコ・パチスロにのめりこむ人たちが増加し、自己破産や多重債務、車内放置による乳幼児の死亡など深刻な事態が続発するようになってきました。

この事態を憂慮したパチンコホルルの団体である全日本遊技事業協会組合連合会（以下、全日遊連）は、パチンコ健全化の取り組みの一つとして、「依存症研究会（現、ぱちんこ依存症研究会）」を発足させました。研究会での検討をもとに、パチンコで生じている問題を拾い上げ、そ

の解決を支援する窓口が必要との方針を打ち出しました。その結果、全日遊連の支援を受けて、パチンコ依存相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」が二〇〇六年四月に設立されました。

開設した相談電話（〇五〇―三五四一―六四二〇 月～金、十時～十六時）には、月一〇〇件ほどの相談が寄せられています。繰り返しされる借金や就労問題に加え、DVや虐待など暴力の問題を抱えているケースも少なくありません。

私たちの機関では、問題の整理と回復に役立つ社会資源の情報を、無料（電話料金の

み利用者負担）で提供しています。依存問題は抱え込むほど重く深刻化します。その解決には、本人だけでなく周囲の人たちが、正しく問題に対応する必要があります。まずはご相談ください。

にしむら・なおゆき

リカバリーサポート・ネットワーク代表